



グリーンシーズンに向けて準備開始

長い冬も終わり、ようやく春らしくなってきた飯南町。この時期は、仕込みの時期。今準備しているのは「女性にウケそうなもの」です。

一つは、「和精油」を使ったプログラム。主に雨の日に予定していますが、蒸気浴やハンドマッサージの香りとして使



い、癒しを届けます。もう一つは、森林散策で人気のハンモック。今までの青と緑以外に、カラフルなハンモックを用意しました。森の中でも映えそうです。

東京で「くもじカステラ」販売

飯南町の老舗お菓子屋さん「吉川吉盛堂」のくもじカステラが、日比谷しまね館で販売されています。「日本古来のハーブ」としても有名なくもじの中でも、香りのいい「ミヤマクロモジ」を微粉末にして生地に練り込んであります。一口食べると、爽やかな香りが口に広がり、飯南町のさとやまを思い起こさせます。近くを訪れた人は、ぜひお試しあれ。吉川吉盛堂でも、タイミングが合えば購入できるかもしれません。(事前にご確認ください)

文化を感じるまちへ 飯南町文化協会

事務局(教育委員会内) 76-3944

飯南町文化協会に加盟している団体の活動を紹介します。今月は「赤名短歌会」です。

短歌は、季節の移ろい、さまざまな出来事を捉えて、「五・七・五・七・七」という「韻」を踏みながら作る、日本独特の文学です。短歌の魅力の一つに、リズムの心地よさが挙げられます。このリズムは古来、日本人に広く愛されてきました。

赤名短歌会の会員は、現在9人。毎月1回「定例会」を開催し、詠草(短歌作品)を持ち寄り、井戸端会議風に鑑賞し合っています。また年度末には、歌集「ふじつる」を発行しています。この歌集の特色は、赤来地域の小・中・高校の卒業学生の作品を掲載していることです。赤来地域の小学生は、飯南高校を卒業するまでに、合計3回(二首)を掲載することになります。

赤名短歌会は、「これからも赤来



歌集「ふじつる」には小中高生の短歌も掲載



定例会の様子

俳句

琴峯俳句会 二月の作品から

峡の家の一汁一菜蜆汁 寒雀近し計報を知る朝は 朽木 豊子
 夢に見し妣口ずさむ手鞠うた 流れ来る五時のメロディ日脚伸ぶ 松平富美子
 猫柳行きつもどりつ俳を思考 立春の山立春の空へ抜け 八嶋 敏江
 猫柳雪帽かぶりたわみをる 不意をつく香や初摘みの露のたう 山崎智恵美
 ときめきを包みてバレンタインの日 天狼や妻は光年より遠し 八嶋 昭男
 目を細む日差しの中のそり遊び 田部智津子
 土池 博子

短歌

赤名短歌会 二月例会詠草

降りしきる雪のかなたへ君行きぬ白におわれしかの面影よ 吉川 映子
 「畑の肉」戸谷師キッチン大豆カレー思出すたびはべがおちる 澤田 勝登
 冬の陽をわずか載せたる山沿ひの空よりむわり雪の大軍 鳥田 勝信
 鬼のくる節分荒れの雪径を佛心で皆でいきまし 清原 豊明
 ついはむは雪か光か立春の梅の梢に集つ小鳥よ 澤田久美子
 春雪の衣まこえる琴引の峯匂やかにもう春の色 石田 フクエ
 声に出しマスクに眼鏡エコーバック やうやく発車す薄氷踏みて 星野 敦子
 ちらほらと梅の花咲く睦月尺耳そばだてて春の音聞く 本間 麗子
 金よりもやりとげたい事貴いてページめくれり羽生の躍動 門所 詠子

今日の人権標語

「家族でつくる人権標語」優秀作品から

つなげよう
 コロナから教えてもらった
 おもいやり

赤名小6年 難波 優心さん
 家族名 難波 結さん

標語に込められた思いを町民みんなで意識し、差別や偏見のない明るいまちづくりをめざしましょう。

すんやかに

2月届出分

新生児 届出人 地区
 門脇 凛音 勇 輝(下赤名)
 藤川 暖ちゃん 純(町区)

やすんかに

2月届出分

お名前 親族 地区
 勝部 育子様(83)興 宏(上赤島)
 深石ナミ子様(101)哲 夫(敷波)

今日の表紙

夜のゲレンデで、勢い余ってひっくり返る安達直之さん(下赤名)。この日は、公民館主催の「友達づくりツアー」に参加していました。転んでもなんだか楽しそうな安達さん。「普段会えない人たちと交流できたし、人の滑りを見られて勉強になりました。次は「雪合戦」とかもやってみたいです」と話していました。(P4に関連記事)

